地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会　広報紙
2020 年 7 月号（第 139 号）
発行責任者　　佐藤 重松

2020. 06. 08 自粛解除後の理事会風景　　場所：松井公民館　仲山 富夫氏/撮影

長い自粛生活のトンネルぬけて 元気と活力をとり戻しましょう！

会長 佐藤 重松

世界中を揺るがした新型コロナウイルスの感染拡大は、日本に於いても感染が全国に拡がり、緊急事態宣言が出され、全国民が自粛生活を余儀なくされました。3 月から 3 か月間の非日常生活が常態化し、長い巣篭り生活スタイルが日常になりました。

6 月に入って、自粛生活が緩和され、公共施設も条件付きながら開放されました。ところざわ倶楽部をはじめ各種の同好会の活動が徐々に再開されはじめました。この時を心待ちにしていた人、自粛生活で出不精が身に付いた人、気力体力が少々萎えている人、さまざまです。

歩けないとか、持病が重くなってと云う方は、リハビリや治療に専念され、再起を目指しましょう。そしてご自宅で「広場」や HP に目を通して頂き、投稿参加などで皆さんとぜひ繋がり続けて下さい。

そうでない方は、気持ちを奮い立たせて、“気の置けない仲間”との交流の場へ向かいましょう。高齢者は、なが～く立ち止まらず、走らないまでも、歩き続けていなければ気力体力は加速度的に低下していくように思います。頑張って歩き続けましょう！人生 100 年時代、まだまだこれからです!!

お知らせ

第 13 期年度計画の「時局講演会」「文芸講座」「第 2 回ところざわ倶楽部まつり」を中止と致します。（6/8 第 7 回理事会に於いて全会一致で確認）

元気な毎日を過ごす為に！
健康寿命の端境期(ヨタヘロ期)を知ろう

所沢社協/地域福祉サポーター代表　佐藤 重松

ご存知の通り、日本の少子高齢化問題は世界に先駆けて深刻化しています。

日本が抱える人口問題では、全国 896 市区町村はやがて機能しなくなる（日本創世会議）と言われています。（今年の国勢調査で、それらの事が統計的に改めて実証されるのではないかと思います）その中でも、高齢化問題はところざわ倶楽部の問題でもあり、当事者として考えてみたいと思います。

東京家政大学名誉教授の樋口恵子（87 歳）さんは、健康寿命と平均寿命の間の十年前後を、ヨタヨタ、ヘロヘロとよろめきながら進む「ヨタヘロ期」と名付けました。（勿論個人差はあるかと思います）高齢であっても、只今は大変元気で、年齢に無頓着な方も居られるかと思います。しかし、体調の変化は男女問わず、徐々に進行しじわじわやって来るか、突然やって来るか、突然やってきて救命されたとして元に戻れるか、とても悩ましい問題です。

「老齢症候群」これは加齢によって心身の機能が衰えたことにより生じる、医療や介護を要する精神面、身体面の疾患・症状・兆候の総称です。それには、（めまい、意識障害、不眠、転倒、骨折、認知症、脱水、骨関節変形、視力低下、日常生活動作の低下、骨粗しょう症、嚥下困難、せん妄、うつ、尿失禁）等があります。

分類すると、①ロコモティブシンドローム（運動器症候群）②フレイル（弱さやもろさを表す）③サルコペニア（筋肉が減少を意味します）④認知症（記憶や判断能力の低下）詳しくは HP に掲載。

2025 年問題（団塊世代が全員後期高齢者となる年）は、様々な課題を提起しています。

最近、身近な住宅地に於いて、在宅医療や訪問看護の車やデーサービスの送迎車、訪問介護サービスの車が多く見受けられます。或は、まだ何とか杖や手押し車で、自力歩行されている方もよく見受けられる時代となりました。5 年後倶楽部会員の圧倒的多数がそのリスクを共有する時代となります。生活困窮や社会的孤立のリスクは少ないかも知れませんが、身体的リスクは、個人差があるものの間違いなく増大します。

ご夫婦で高齢（老々介護かお二人共要介護者か）となり、何れ一人に（既にお一人の方も）なり、そして　内臓疾患からくる要介護・認知機能からくる要介護が身近な問題となります。

「昨日出来たことが今日出来ない」そんなことが日常茶飯事となって、加齢と共に増えていきます。

顔が分かるが名前が出てこない？何かを探しに 2 階へ行ったが“何だっけ？忘れないようにメモしたのだが、そのメモが見つからない・・・”などなど、これらの悲喜こもごもは、多くの人が身に覚えのあることではないでしょうか。

高齢者世帯・独居世帯の増大は（通院・買い物・ゴミ出し・家の周りの手入れ・安否問題）が。

空き家の増大（コミュニティの不安定化・防犯・防災上の問題）が。

認知症発症者の増大（独居で、老々で/夫婦どちらか或はどちらも要介護者）等々で。また、単身の子どもが同居の場合の 80/50 問題（親が 80 代で子が 50 代）も深刻です。

このような日常の様々な問題を抱えた時、先ずは適切に**相談できるネットワークを知って**おいて頂きたいと思います。これについても HP でお知らせ致しますので**一覧表をプリントアウト**して、お部屋の目につくところに貼って頂ければと思います。

新会員の声

市民大学に学び、ところざわ倶楽部に入会して

野老澤の歴史をたのしむ会　茂出木 正和

2016 年第 24 期所沢市民大学に入学し、2 年次には大堀聡先生の「地域の自然」講座に学びました。修了後第 26 期企画委員会に参加し市民大学の企画運営側で継続してお世話になりました、2 年次担当講座は笠松泰洋先生の「音楽」でした。

この間、時には侃々諤々な議論を戦わせたり、時には六十歳の手習いで、リコーダーによる伝統芸能「雅楽」に触れることができました。振り返れば多くの知人友人を得、熱い思いを持つ先生方に恵まれ、地域の自然、歴史を知り、ここ我が街所沢に大いに興味を持つことができました。

最大の喜びは魅力溢れる仲間との出会いができ親睦の輪を広げられたことと、今まで自分が気付かないものを発見できたことでした。そして生涯学習推進センターでは名人達人の会、語り部の会等にも顔を出す機会を得られました。交流が更に広がり、知的好奇心が満足した 4 年間でした。

今回ところざわ倶楽部「野老澤の歴史をたのしむ会」に入会させて頂き、新たな学び、新たな活動に心がワクワクしております。感動、希望が得られ、更なる成長が得られますよう期待しております。

昨今新型コロナウイルスで世の中が騒然となり、楽しみとしていた学び会、屋外活動、行事等が中止・延期となっております。皆さまと和気あいあい学び、語りあえる「平穏な日常」が戻ってくることを心から祈っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

新 し い 出 会 い へ

傍聴席 中村 恵子

仕事をリタイアし時間の余裕が生まれ、住んでいる街所沢を知らないことや、お仲間ができたらとの思いから市民大学を受講することにいたしました。26 期市民大学 1 年次では多種多様な講座があり、未知な分野も多く、新鮮な気持ちで楽しく受講できました。

2 年次では地方自治を選択し「第 6 次所沢市総合計画」や「所沢市人口ビジョン」を学び、これからの所沢を考えることができました。所沢駅前の再開発やサクラタウンなどについてそれぞれ意見を交わし一つにまとめ上げ、素晴らしい仲間と充実した時間だったと感じています。

市民大学を修了した後何かやりたいと考えていた時に「ところざわ倶楽部」を知り、2 年次で地方自治を学び、これまで所沢に長く住んでいたにも関わらず、知らなかったことが多く、所沢についてもう少し知りたいとの思いから「傍聴席」に参加させていただくことにしました。定例会に参加し先輩の皆様方の豊富な知識と探求心には圧倒されました。

これから少しずつ勉強させていただき、身近なところから問題意識を持ち、所沢市民の一人として、所沢市を考えることができたらと思います。

ところざわ倶楽部の講演会などにも参加できることを楽しみにしています。よろしくお願い致します。

おすすめの１冊
第９回

「アルプ」－小さな桃源郷－

18 期 稲村 洋二

1958 年に創刊、1983 年に 300 号で幕を下ろすまでひときわ存在感を放った文芸誌があった。哲学者・串田孫一が責任編集し、創文社が発刊した「アルプ」がそれである。「山の文芸誌」を標榜し、コース案内も登山のハウツーもない。山を思索の場とする芸術家、文学者、詩人が随想や詩文を寄せた美しい雑誌であった。

25 年ほど前の 1995 年夏、友人と常念岳に登り宿泊した常念小屋に「アルプ」が 30 冊ほど書棚に置いてあった。私は「アルプ」を定期購入していたが、当時なぜ廃刊になったかも知らず突然本屋から「アルプ」が消えていた。常念小屋で「アルプ」を見つけた時すでに廃刊から 12 年がたっており、私には宝物を発見したような気持ちであった。執筆者の格調高い文章、詩、画文、写真、挿絵、美しい本の装丁は「アルプ」そのもので、なつかしさのあまり小屋でワインを片手にページをめくったものである。「アルプ」は 70 ページほどの雑誌であるが、創刊当時は山の先鋭雑誌「岩と雪」の対極にあった。「岩と雪」が“積雪期初登山”の記録に重点をおいて、岩場ルートの研究や論考的記事など実践的な内容を明確に打ち出していた。

一方、「アルプ」は登山界の現状には無関心で内容は“山での思索”を綴った文芸誌であった。ドイツ文学者でエッセイストの池内紀（おさむ）氏は創刊された当時の社会背景と「アルプ」を次のように語っている。“「アルプ」は山の雑誌だったが、山をめぐって鋭い観察と深い省察がつづられる時、おのずと山の雑誌からはみだした。山人や山の生きものたちが語られるとき、それは文明批判を帯びてくる。そこにはつねに、それぞれが行き着いた桃源郷が語られていた。（中略）その列島が、いまや「改造」の名のもとに土建屋に売り渡された。自然のパノラマよりも土地権利証が人をとらえる。そんな時代にあって、「アルプ」は、ことさらしかつめらしい批判などせず、意味ありげな訓戒を垂れたりもしなかった。頁を開くと澄んだ空気が流れ出た。木の葉のように軽妙で、風にしなる枝のように柔らかい。つまり、並外れて健全に、そして厳格に生きたということだ。そして、自分のつとめを果たし終えたかのように消えた。”

2007 年 9 月 5 日付けの日本経済新聞に“アルプの精神つなぐ館”という記事が文化面に載っていた。この記事の中には、実業家山崎猛氏が北海道斜里町にアルプが残した精神を引き継ごうと「北のアルプ美術館」を建てたいきさつが書いてあった。「アルプ」の中の文章“ここよりもなお高い山へと進み、山から下ってきたものが、荷を下ろして憩わずにはいられないこの豊饒な草原は、山が文学として、また芸術として燃焼し結晶し歌となる場所でもある”を目指してのことである。建物は山荘風に設計され、敷地には自分の手で 100 本の白樺が植えられ、当時で年間 3000 人が訪問しているとのことである。「アルプ」の中に映し出される山の風景、風、花、雪、岩は我々が登って感じた風景に深みを与えてくれた。山の詩人と言われた尾崎喜八が「アルプ」2 号に載せた夏沢峠（八ヶ岳）の詩がある。その峠に到達したときの感動を次のように詩っている。

頂上に近い岩のはざまの銀の滴り
千島桔梗のサファイアの莟
高山の嬉嬉たる族よ
風は諏訪と佐久との西東から
遠い人生の哀歓を吹き上げていた
真っ青な峠の空で合掌していた

「アルプ」が廃刊になって 37 年になるが、山を心で感じて表現をする文芸誌がなくなったことは大変残念に思っている。

私は何年か前に“山と渓谷社”から発刊された「アルプ」の単行本を購入し、今手元にある。廃刊された「アルプ」は今なお現存しておりアマゾンで購入可能です。

「戦争と平和！」
第 22 回

私の戦後 75 年

池田 新八郎

沖縄戦から 75 年　コロナ禍の中の慰霊

6 月 23 日、約 20 万人もの命を奪った太平洋戦争末期の沖縄戦からもう 75 年が経過、今年もまた「沖縄慰霊の日」を迎えた。しかも今年はコロナウイルスの影響で追悼行事は中止、追悼式は開かれたが規模を縮小して昨年 5100 人の参列があった参加者も約 160 人であったという。戦争の記憶が薄れていく中で、沖縄には現在も日本の基地の約 70%が集中しており、辺野古基地の移転工事が沖縄県民の意思を無視して進められている。沖縄の基地の在り方と県民の心情を、日本国民全体で考えてみるべきではないだろうか。

また、この歳月を経ても日本は、国内のみならず中国、韓国から真の意味の謝罪がないと言い続けられている。戦争の禍根は重く、中国、朝鮮半島、ロシアとの関係も何か問題があれば戦争責任を問われ、同盟国であり、政権が頼りとするアメリカのトランプ大統領からも、基地の在日駐留軍の経費負担金、年間 80 億ドル（約 8500 億円）の支払いを迫られている。今後の日本の舵取りはどうすればいいのだろうか。戦後 75 年、日本は十分反省し、平和に向けての活動も進めていると思う。自立し、日本国民が求めている本物の独立した日本の平和国家像を考えてもいい時期に来ているのではなかろうか。

父の戦死と「ビルマの竪琴」との出会い

私自身も先月（5 月）78 歳の誕生日を迎え、残された幾ばくかの余生を、どのように生きていくのか想いを馳せる年齢となった。私事であるが、戦争については辛い思い出がある。この年を迎え、「見えない戦争」と言われるコロナ騒動によって、自分自身について少し考える時間ができた。

まず戦争についてだが、私は少年時代に読み、映画にもなった竹山道雄作、安井昌二主演の「ビルマの竪琴」が忘れられず、戦争といえばビルマの竪琴、そして兵士が家族を思い、よく口ずさんでいたという「埴生の宿」を思い出す。何故かと言えば、私の父は終戦間近の昭和 20 年 3 月 10 日、悲惨なビルマ戦線のとある川で命を落したと母より聞かされていたからです。

ストーリーは皆さんよくお分かりの事と思いますが、敗戦が決まった日本軍はイギリス軍の捕虜となり、収容所生活を送っていた。そして日本へ帰れるということが決まった数日前に小説のハイライトシーン「おーい　ミズシマ　日本に　一緒に帰ろう！」という主人公の水島の肩にいたインコが叫ぶ場面がある。しかし水島はもう 1 匹のインコに「ああ　自分はやっぱり　帰るわけにはいかない」と言わせます。最後まで抗戦していった日本軍人の意地と、この戦争の意味が正しい戦争であったのかどうか水島は疑問を感じたのであろう。水島はビルマに残り、僧侶となってビルマの竪琴を肩に、白骨街道と呼ばれるごろごろ転がっていたという日本兵士の死体を処理、供養し、「埴生の宿」を弾きながら、祈りを捧げることに自分の人生をかけたのである。こういう兵士の犠牲のもとに、今日の日本の発展と平和があることを忘れてはならないと思う。

終戦時私は 3 歳で戦争の記憶はまったく皆無、母は当時住んでいた京都を引き上げ、私と弟を連れ実家の鳥取に帰り、高校を終えるまで鳥取で過ごすことになる。終戦時の貧しい配給生活を微かに覚えている程度である。戦後の復興期、高度成長期、バブル期、私の成長期でもありますが、数々の点で母と対立しました。早く自立してほしいと願う母と私自身の夢でよくもめました。母は高校進学を工業高校か商業高校をすすめました。また大学と就職も東京ではなく地元か関西へ、しかも郷里に帰り役所に勤めるか、教師になることを望んでいました。私が早く就職し、親子で、鳥取の田舎で静かに平和に生きることを願っていたのであろう。

戦後を生きた母の最期

最後になりましたが、私は母 78 歳の時、認知症がかってきた母を田舎から所沢に呼び寄せ、92 歳の死まで 14 年間看取りました。郷里での温和な生活を夢見ていた母の期待に反し、自分の夢を追い求めていた不孝息子の最後の親孝行だったのだが……。これが私のささやかな「戦争と平和」への心情である。

サークル活動報告

ネット持寄り学習をしました

地球環境に学ぶサークル 中島 峯生

3 密を避けた６月度定例会

毎月１回の定例会をウイルス感染防止の外出自粛要請等で3、4、5月度は中止にした。この間、各自から環境情報をメールで紹介し合った。情報数は13項目になる。その中でも TV 放映の情報はタイムリーに濃い内容でしたので、紹介します。3月17日テレビ東京・「ガイアの夜明け」での「ゴミを宝にする新技術」では、①川崎市浮島処理センターは焼却灰を海へ巨大コンベアーで直接埋め立てる。しかし、35年間で満杯になるのでゴミの減量を呼掛けている。②前橋市のナカダイ廃棄物処理会社は女性作業員により全国平均 53%のリサイクル率を99%達成していた。③プラごみリサイクル率現在 16%を 50%にすれば約 2 兆円規模のチャンスが有ると前向きの会社、④千曲市のモキ製作所は、汚れたプラごみを洗浄し廃プラにする分別率99.9%の分別機、大手食品工場、自治体に納入されている。フィリッピンでの実演は感動的でした。（写真）⑤ウールの古着から糸を紡ぎ衣類の製品化をしている。等、廃棄物を活用するベンチャー企業の活力を知った。

フィリッピンの実演

また、昨年 10 月アル・ゴア元米国副大統領率いる Climate Reality Project チームが来日し、お台場の会場で 800 人を超える参加者を対象に、「気候危機を伝え、気候行動をとってもらうための２日間のトレーニング」を行った。等の情報を得て各自相応の勉強が出来た。

この経験は定例会の進め方に活かして行きたい。

地域公共交通政策問題

傍聴席 石堂 智士

3 密を避けた６月度定例会

昨年から、傍聴席は市議選アンケートから、「公共施設マネジメント」と「地域公共交通政策」の２つの市政課題について、学習会を行っています。今回はコロナ対策のため７月定例会に延期した「地域公共交通政策問題の自由討議」を取り上げます。

「地域公共交通政策」は、村瀬氏が幹事として、国政から市政までの政策や議事録などを自習して資料を作成して、すでに 2 回ほど学習会を開催しました。この資料によると、国が「地域公共交通法」を施行したのは 2007(平成 19)年で、「ところバス」(2 系統)が始まったのは 1998(平成 10)年からでした。市政が国に先行してこの問題に取り組んだことがわかります。国の方針が出てからこの問題に対して、市行政は庁内検討委員会を立ち上げて検討したり、市議会も毎年のように一般質問で各派の議員が取り上げています。市長も、2015(平成 27)年から、数回の諮問を要請して「ところバス」問題に取り組んできました。

しかしながら、赤字縮小や路線の見直しなどの改定がいろいろ図られても、「ところバス」運行は市民を満足させるには遠い状況にあります。高齢者の交通事故増加により、運転免許の返納が目立ってきて、所沢市内の地域公共交通の問題はますます大きくなっています。

定例会延期の５月に、村瀬幹事がこの問題に対する自由意見を募集したところ会員 11 名から意見提出がありました。幹事はすべての会員意見７頁をまとめました。コロナ対策の新しい施設利用もあって、限られた時間と参加人数制限の中で、闊達な意見交換を通して、問題解決への道を探りたいと思います。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 （水上 俊彦 080-6855-5868）
8月は計画を変更して、休講とします。
8月計画の暑気払いはコロナ対策の為、中止と致します。
9月10日(木)中央公民館13:30～15:30渡部先生講義「歌舞伎」
(3回シリーズの2回目)、15:40～16:30例会

2. アジア研究会 （玉上 佳彦 090-2497-1076）
7月22日(水)13:00～15:00 中央公民館8,9号室 定例会
テーマ：中村哲医師を偲ぶDVD鑑賞＆アフガン情勢に関する討論会
8月は休み、暑気払いは未定
9月定例会 9月16日(水)に予定

3. 活きいきシニア福祉の会 （川上 紀春 090-5573-2548）
7月22日(水)13:00～15:00 定例会 生涯学習推進センター
コロナウイルス医療体制について（学習・意見交換）
8月 夏休み

4. 楽悠クラブ （田村 健一郎 事前連絡は不要です）
6月～8月は、次のように休会とします。
6月；「ワーグナー歌劇 」⇒9月以降予定
7月；「ベートーヴェン・生誕250年特集」⇒9月以降予定
8月；夏休み
9月には、皆様と、音楽を楽しめる日を願っています！！

5. 食を通して所沢を知る会（木下 みえこ 090-7272-6752）
7月22日(水)10:00～15:00 むい食堂（所沢市北秋津）
料理実習‥スペイン料理
8月18日(火) ユーズキッチン(所沢市緑町）暑気払い予定

6. 地球環境に学ぶ （中島 峯生 2928-1161）
7月21日(火)9:00～11:00 新所沢東公民館研修室4号室
定例会 ①討論会「グレタ氏について」②環境情報交換 ③他
8月 定例会未定

7. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会（田口 元也 090-9820-5668）
7月10日以降の活動計画は未確定です。7月8日（水）に定例会を予定しておりますので、この会議にて次回の活動計画を決める予定です。
SP（スマイルパイレーツ）の活動も7月は未確定です。

8. 所沢の自然と農業 （稲村 洋二 2992-1751）
7月18日(土) トトロ21号地保全活動。
7月21日,31日 柳瀬荘黄林閣散策路整備ボランティア
8月13日(木)10:00～13：00 定例会・淵野先生講演会
新所沢公民館
8月13日(木)13：30～ 暑気払い

9. 野老澤の歴史をたのしむ会 （大舘 徹 2924-3010）
7月の活動は中止
(2日13:00～15:00新所沢公民館・幹事会のみ)
8月20日13:00～17:00
渡辺隆喜先生を囲む座談会＆暑気払い（懇親会）

10. ドラマティック・カンパニー（高橋 信行090-9393-6238）
7月、8月の活動は中止します。
9月再開を予定。

11. 懐かしの映画・鑑賞会 （二上 拓夫080-1250-6151）
7月14日(火)10:00～12:30 西新井町会館
洋画「大脱走」(`63年) マックイーン・等
7月27日(火)10:00～12:30 西新井町会館
特番映画「映画の魅力について？ - マキノ省三」

12. 脳活サークル （加曾利 厚雄 2939-2308）
7月27日(月)10:00～12:00
こどもと福祉の未来館 3F多目的4号
～「埼玉三偉人」を改めて ～

13. 傍聴席 （石堂 智士 2947-0835）
7月20日(月)14:00～16:00 新所沢東公民館研修室5号
学習会 「地域公共交通政策の自由討議」3回目
「会員からの自由意見」「まとめ」配布資料15部
9月23日（祝日重複のため水曜日） テーマ未定

14. 民話の会 （仲山 富夫 090-3902-0283）
7月17日(金)10：00～13：00
こどもと福祉の未来館 多目的室3号 定例会
「福猫塚」「東光寺の金毘羅さん」の読み合わせ
8月 夏休みといたします。

理事会報告 6月8日（月）第7回理事会を開催した。

・新型コロナの影響で、4月、5月休止していた会議室での理事会を再開した。今年度の事業について、会場の使用条件や各サークルの意向を聞き協議した結果、文芸講座、まつり、シンポジウムを中止することになった。特に「まつり」は ① 全員参加を目標としており、気分が盛り上がらない ② 各サークル活動を優先するため、準備が整わない ことが中止理由・背景。コロナ禍が落ち着けば、来年度行事全体の最適な順番を検討し、14期のスケジュールを組み立てる。

・「広場」は5月号休刊。6月臨時号を発行した。7月号から通常版に戻す。ホームページは通常通り更新を継続中。

・食トコ提案を受け、フードバンク支援協力を呼びかけ中。募金（任意）をサークル理事経由でお願いします。

みんなの広場　第23回

懐かしの映画・鑑賞会
新井 智子

懐かしの映画・鑑賞会のオンライン夜会に出席して

コロナによる自粛生活の中で懐かしの映画観賞会のサークルが、代表の二上氏の発案で『離れて繋がろう』という趣旨で、ほぼ全員がメールで情報を交換したり励ましあったりしている。その中この度4回のオンライン夜会が開催されました。

オンライン夜会と聞いて私は幹事役の二上氏に「ＰＣにマイクとカメラをどう接続させるのでしょうか？」と聞いた。明解で「好みのドリンクとおつまみを用意して時間になったら、ＰＣを開けて待っていればいいです。こちらで開始の合図をしますから。」というものでした。不安はすぐふっとびました。7時半から9時の間ひっきりなしにメールが飛び交い、ちょっとだけでも席を立つのが惜しい位でした。

メール総数は未確認ですが相当なもので、幹事が翌日まとめて出してくれるダイジェスト版やそれに付随する物を含めると60～70くらい、それ以上でしょうか？

夜会の内容は幹事がテーマを前もって出してくれているので、それに沿っていくような、自由にソレテいくような、何でもありの大興奮の時間でした。

コロナは大きすぎる脅威で誰でもとても不安ですよね。それでも人間には知恵がある。

楽しく生きなければ生まれた意味もない。見たことも聞いたこともないような異国や異次元の映画の話に興じる。仲間の経験談に耳を傾けたり又互いに笑い転げたりする。今大事なもの、もう理屈は通用しない。素直に心で感じましょう。

むさし野俳句会(令和二年六月)作品抄

夫の手に洗濯物や春日和　宮本　信生
花冷えや深爪したる薬指　荒幡千鶴子
古き家にひたすら籠もるアマリリス　井出　昇
万緑の道の結界もぐら塚　海老澤愛之助
手を通す七分袖シャツ柿若葉　小林　貞男
金色の光あふるる柿若葉　小林　典子
朱で記す中止の二文字四月尽　佐藤　八郎
三密を避けて散策山笑ふ　白神　恵子

五歳虫寝屋まで迫る夏蚕飼ふ　高梨　千代
しばらくは桜の傘の日照雨かな　高橋三加子
公園の静まり返る子供の日　利根川啓一
妻と席とり替へてみる初夏の卓　中嶋　弘子
五月一日マイナンバーの使い初め　橋本　佑子
コーラスに手話を交へて聖五月　平栗　彰子
行く春や観音様もマスク付け　鈴木　征子

「むさし野俳句会」も新型コロナ感染症の緊急事態宣言以降句会を休止し、誌上句会を行いました。最近メンバーが減少していますのでよろしければ会にご参加して下さい。
連絡先　中嶋　2994-6045　井出　2944-9833　海老澤　2922-0259

川柳（五十三）作品発表　選　中島峯生

課題「近い」

好きな子の近くに座りほほ赤く　どうし
ウソっぽい近くに来たの寄ってみた　突拍子
近づくとすらりとよける回避癖　りんご好き
距離をとり男黙ってビール買う　庵閑子
古希過ぎて小便近く目は遠く　縄文人
今が旬こんな気持ちで迎え待つ　鼻・鬚

「自由題」

パソコンで三次会まで盛り上がる　庵閑子
マスクする昔がにおう端切れ製　りんご好き
手作りの子供マスクは母の汗　どうし
近所とは孫の話で立ち話　海さとる
買わなけりゃ夢も見れない宝くじ　突拍子
駆け巡る世界を股に新コロナ　鼻・鬚

次回（第54回）**課題「独身」**そして**「自由題」**
締切り日：8月20日、担当中島まで、どなたでも
宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp　Fax04-2928-1161

≪編 集 後 記≫

「広場」編集に携わることになり、広場が多くの工程を経て、作成されていることがわかりました。そこには皆様の大変なご苦労を感じました。その部署に少し慣れてきた頃に「新型コロナウイルス」が突如現れ、編集会議もできない状態でした。「新型コロナウイルス」の感染により世界中が凍りつき、私の心も凍りました。現在は自粛から自制となりましたが、人が動かないと労働力が低下し、生産性も低下すると食糧危機にもなります。先日の毎日新聞の記事に「食料危機コオロギが救う？」とあり、現に「コオロギせんべい」が売り出されているようでした。これからはなにが起きても不思議ではない。その時は現状に共存する覚悟が必要と感じました。残された人生を楽しく生きたい。それには、まず健康で目前のことをユーモアと笑いをもってこなし、日々を重ねたいと願っています。

（園田　記）

「広場」問合せ 玉上 佳彦（090-2497-1076）